

居合道だより

令和5年4月/第200号





はじめに

『目の寒中稽古』

八女地区居合道同好会

居合道 教士七段 小川内 泰生

寒いな、稽古いきたくないな

昔の剣道場の稽古場は、冷暖房の設備無しが当たり前のこと季節の一番厳しい時に『寒稽古』があり 精神と肉体が鍛えられる由縁である。

それに、最近ではコロナ対策で この寒い時期でも 換気を良くする為に窓全開である。

若い時ならいざ知らず、70歳近い老骨には 骨身に染みる寒さだ。しかし、この冬にしか出来ない稽古がある。

一眼二足三丹四力の 武道で一番大切な『目の稽古』である。

”目は口ほどにモノを言い”などと云われ モノ言わぬ居合道には最も重要な機能、役割で目力を鍛える鍛錬である。

居合道でも剣道でも、試合をしているときは瞬きをしない、敵から目を離さない。

出来れば、開始戦に立った時から 開始戦に戻るまで瞬きをしない。
開始線＝開始戦である。戦場に立つのである。

命のやり取りをする時に、瞬きの余裕などありえないと教えられた。
制定居合の一技で 最低でも 35 秒 50 秒程度 瞬きをしない稽古である
湿度の低いこの時期が最適である。

若い弟子たちは、普段気にも留めない瞬きを 注意すると、えー？笑顔で
涙を流しながら稽古する。

試合で、負けて泣くより 勝って泣けと 笑顔で指導している昨今である。
それでも、ズボラなヤカラには、コタツの中で稽古できる方法がある。テ
レビを見ながら、コマーシャルの間 瞬きをしない稽古である、一度お試
あれ。

宮本武蔵の五輪の書にも『目付の事』は有名である
観見 二つの目付、いささかも敵の太刀を見ず・・・兵法の大事なり。
しかし、最後の”目の玉動かずして両の脇を見る事肝要なり”はあまり知ら
れていないかな？。

解釈はいろいろあるが、参考になれば幸いである。
最期に、

冬来たりなば 春遠からじ 目を細長くして 暖かい春を待ちましょう！

3月の予定（4月未定）

5	日	居合道段位審査会（六・七段）	全剣連	京都市
12	日	地域稽古会 <u>（大隈体育館）</u>	居合道部	筑豊
18	土	北九州居合道大会 北九州居合道同好会	北九州	
19	日	福岡県居合道段位審査会（級・初～五段）	福岡剣連	福岡武道館

編集後記

2月は特に行事がなかったのですが、3月に審査を受ける皆さんは、さぞ稽古に打ち込まれたことと思います。

2月終わり頃から暖かい日が増えて、飯塚市の体育館も今年新しくなり、稽古環境が良くなるのかなと期待しておるところです。（この詳細は5月号でお知らせします）

花粉も黄砂も飛び交うおかげで目が開けられない（苦笑）。足の冷たさは最近やっと解消されたのですけどね。

冒頭の小川内先生の文章の中にも「目を開けろ」と訓示されていますが、人によってはこれが苦痛でつい瞬きしてしまう。考えれば考えるほど、ダメと思えば思うほど加速する。一回でいいものを5回10回と……。自分で自分がおかしくなってニヤけるともう止まらない。修行が足りません（マスクがなければ完全にあぶねーやつに見える?!）

相変わらずコロナも多い中、世間もコロナと付き合い方を変えて、各種行事が再開されてだして、つくづく人間には「楽しみ（または遊び）」が必要なのだと知らされます。

今月は待ちに待った北九州居合道大会が開催されます。今までとは趣向も変わり、「ん？今までと違うな？」と思うような一味違う大会になるように、新しい試みが用意されていますので、お楽しみに。

参加する人が楽しい！見るのも楽しい！わかりやすい！興味深い！というおもてなしの方向性を示せばとスタッフが知恵とアイデアとを絞り出しながら準備を進めております。（大会スタッフの皆さん～ハードル上げときましたよ～！）

また、行き届かないところ、考えがまだまだ浅いところは後日皆様からご意見を頂戴して、次回にフィードバックできればと考えております。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第200号 令和5年3月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW